

あらゆる弾圧・組織破壊攻撃をうち砕け

日刊 動労千葉

81.7.13

No.790

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）（電）七二〇七

権力にコビへつらう
『本部』反動分子を一掃しよう。

七月八日早朝に、動労「本部」石津中執、竹内、革マル弁護士渡辺、町田、転び屋・革マル分子嶋田誠、斎藤吉司、佐藤次男の先導と立合いのもとに強行された警察権力による「現場検証」をわれわれは絶対に許すことはできない。この「現場検証」こそ動労千葉を一日も早く権力の手を借りて弾圧し組織破壊せんとこの願う動労「本部」反動分子の腐りきった本性を満天下に示したものである。嶋田誠・斎藤吉司らは、わが動労千葉組合員十名を権力に売り渡さんと四時間にわたって田舎芝居よろしく権力の前でデッチ上げの「被害状況」を演じたのだった。こんな卑劣な、労働者の風上における密告者を許してなるものか。全組合員の皆さん。今こそすべての怒りを解き放ち、津田沼支部を先頭に権力・「本部」一体となった弾圧・組織破壊攻撃粉碎にまなじりを決して立ち上げられ。

明白となった動労千葉の勝利と
「本部」反動分子の敗北

今回の、「本部」によるデッチ上げ告訴・権力導入策は、誰れが労働運動の大義を貫く者なのか、誰れが労働運動の大義をすてさり権力の側に転落した者かを鮮明にしたといえる。
労働運動の原則は、いかに苦しくとも、権力との緊張関係をつねに保ち団結し闘うところにある。

しかし「本部」反動分子は、動労千葉解体のために、ついに労働運動の原則を踏みじり、権力に屈服し権力に弾圧を要請するという、鉄労以下の組合の道へと転落したのだ。
数億の金をつぎこみ、七九年四・一七津田沼襲撃事件を頂点とした数限りない暴力襲撃をくりかえし、八〇年四・一七津田沼スト破壊襲撃が失敗するや、布施副委員長の解雇処分を要求し、三月ジェット闘争ではスト破りを公然と行う等々……ありとあらゆる破壊活動をくりひろげその破壊と敗北の隠れ蓐として、ついに権力の手を借りての動労千葉破壊に走ったのである。

告訴路線に内部動揺深める動労

このあまりにも腐りきった告訴路線に対しいま動労内部で批判の声が続出している。

そのなによりもの証左が、六月十五日付「本部青年部委員会」の「決議文」なるものには「警察権力はわれわれの『千葉動労』告訴に対し調査妨害にのりだし、千葉局・現場職制に圧力をかけて口封じに打って出ているのである」と書き出し必死になつて権力の弾圧を要請していたのであるが、このあまりにもおぞましい権力・「本部」の一体

化に批判が続出し、以後、『千葉動労』を告訴した等と動力車新聞はもとより「本部」反動分子が組織内タガハメの為に無理矢理おしつける『千葉動労弾効決議』文中にも一言もふれられていないのである。

しかも、肝心かなめの千葉内「本部」派の組合員は、告訴問題の追求から逃げまわりついに「本部」派Aは、「告訴することは間違いだ。嶋田は革マルだからあんなデッチ上げをやるんだ」と卒直な批判をあげている。
全組合員の皆さん。

あらゆる弾圧を許さず、「本部」反動分子を徹底弾効し、動労から「本部」反動分子を一掃し、動労大改革へむけてさらに前進しよう。



「津田沼を権力取場—マル生取場と化さんとする、動労『本部』を一人残らず叩き出せ！」——権力の完全な手先、卑劣なコビ・タレコミ分子—嶋田・斎藤(他)への怒りはすさまじい。動労千葉、国労を問わず、津田沼は「本部」への憤激で火の玉となっている。千葉の「本部」の各職場でも、革マル嶋田誠のあまりの権力者ぶり、デッチ上げ告訴路線に、様々な批判が出はじめている。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！